



文部科学省委託
令和2年度初等中等教職員国際交流事業

タイ教職員招へいプログラム実施報告書



はじめに

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU, Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO) は、ユネスコの基本理念に基づき、多様な文化が尊重される平和で持続可能な社会の実現に資するため、アジア・太平洋の人々と協働し、文化と教育の分野において地域協力・交流活動を推進しています。

ACCU の教職員国際交流事業における日本のパートナー国は、2001 年から韓国、2002 年から中国、2015 年からタイ、2016 年からはインドが加わり、現在 4 ヶ国と連携、東アジアから東南アジア、南アジアに交流国を広げています。開始当初より 2020 年現在までに、海外教職員は 4 ヶ国合わせて 4,100 人以上、日本教職員は 1,100 人以上が海を渡り、教育現場が舞台の国際交流を通して、これらの国々の相互理解と友好の増進に大きく貢献してまいりました。

今年度、各国との交流プログラムは新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から、オンライン上での交流へと形を変えて実施し、国内外の教職員延べ 174 名にご参加いただき、日本への受け入れには 13 の教育委員会や学校にご協力いただきました。各国のカウンターパートと協働しながら、オンラインだからこその取り組みを模索する中で生まれた新たなプログラムもあります。変化の激しい社会情勢の中においても、国際交流の重要性を再認識し、課題を見据えながら、よりよい事業に昇華させていくため、ACCU は今後も真摯に取り組んでまいります。

最後に、本事業の実施にあたって多大なるご支援とご協力をいただきました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

2021 年 3 月

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

1 期待される効果

本プログラムを通して、参加したタイ教職員のみならず日本教職員の変容をもたらし、

- ① 生徒に多様性を受け入れる姿勢をもつことができるようになる
 - ② 学校により良い授業などを取り入れることができるようになる
 - ③ 教職員・学級・学校間交流が盛んになり、持続可能な成果が得られるようになる
 - ④ 教職員の自己肯定感を醸成することになる
 - ⑤ 教職員・生徒のメディアリテラシーを向上させるようになる
 - ⑥ 児童・生徒のグローバル人材への歩みを促進させるようになる
- ことが期待される。

2 活動内容

ウェブ会議システムを活用し、以下の活動を行う。

- (1) 動画視聴による日本の教育制度および政策・課題を学習
- (2) 動画視聴による地域理解
- (3) 動画視聴による学校視察
- (4) 動画視聴による授業や特色ある教育活動の視察
- (5) ライブでの日本の教職員・生徒との交流・意見交換会
- (6) 会員サイト TREE を用いた継続した日タイ教職員交流

3 日程

日程	日付	通信拠点	活動
第1日	11月12日	ACCU	日本の教育制度について動画視聴
第2日	11月27日	名古屋経済大学市邨高等学校	Debsirinromklao School とのオンライン交流
第2日	12月8日	山形県立山形東高等学校	Suksanareewittaya School とのオンライン交流

●参加者リスト

No.	氏名	学校名
1	Reika Mifune	Debsirinromklao School
2	Matahathai Kochasena	Debsirinromklao School
3	Nantana	Debsirinromklao School
4	Jintanaporn Nithiwanit	Debsirinromklao School
5	Thananchanok	Debsirinromklao School
6	Samrit Jivaraphat	Suksanareewittaya School
7	Chonthicha Chaowalit	Suksanareewittaya School
8	Thongchai Photong	Suksanareewittaya School
9	Phattarapha Hongtong	Suksanareewittaya School
10	Siriluk Pukdeyotin	Suksanareewittaya School
11	Chatchai	Suksanareewittaya School
12	Thanyaporn Siwapongrojsiri	Suksanareewittaya School
13	Moon Shining	Suksanareewittaya School
14	Wannipa Srinont	Suksanareewittaya School
15	Supichaya Taweepornchok	Suksanareewittaya School

実施内容

本年度で6回目となる本プログラムでは、タイの Debsirinromklao 校と Suksanareewittaya 校から教職員 15 名を招へいしました。

11月12日にオリエンテーションを実施し、文部科学省から日本の初等中等教育についての講義を受講後、11月27日に名古屋経済大学市邨高等学校と12月8日に山形県立山形東高等学校をそれぞれオンライン訪問しました。

タイの2校は共に生徒3,000名前後、バンコク近郊にあり日本語を含む語学教育が盛んな高校です。市邨高校と山形東高校ではタイの教職員と生徒に一目で学校の特長を掴んでもらえるよう工夫を凝らした学校紹介動画を作成しました。動画視聴後の生徒間交流や教職員懇談会では多くのやり取りがあり、そこから新たな気づきが生まれるとともに相互理解を深めました。僅か3時間の交流でしたが「世界中でこのような活動を行うことが、きっと平和につながっていくのだろう」という生徒や、「普段国際交流に携わらない他の教職員も参加できたことにより、国際理解推進の意義を学校内に幅広く伝えることができた」という教職員、何より「今後も継続して生徒も教職員も交流を続けていきたい」という声ので、早速連絡を取り始めるといった動きが見られるなど、今後の展開に期待が膨らむ交流となりました。



山形県立山形東高等学校と Suksanareewittaya 校との教職員交流

関係者コメント

名古屋経済大学市邨高等学校 教諭 岡田 利子

1. 今回のオンライン交流から、教職員の皆さんや学校が得たものは何でしたか？

海外ともつながろうとする気持ちや、それを行動に移すことです。私たち国際理解の委員会のメンバーだけでなく他の教員も参加できたことから、これがこれからの世の中に大事だと認識し、少しずつでも前に進むことができました。今後の留学生受け入れにも、もっと理解が得られると思います。また、海外の高校の様子が少しわかったことも大きな収穫でした。

2. 今回のオンライン交流から、児童・生徒の皆さんが得たものは何でしたか？

異文化を知ろうという姿勢です。世界とつながるのは簡単だということを知るだけでなく、それがこれからの社会では必要であり、大事なことだと少しわかったのではないのでしょうか。何より、知らないことを知るといふ楽しさを学んだようです。

3. 受入れた国の学校・教職員・児童・生徒の皆さんと引き続き交流を図ることを検討するようになりましたか？

その日の交流だけでなく、生徒同士は今後も交流を重ねたいと思っています。教員も交流を続けたいのでメールを送った教員がいますが、返事がなかなか来ないようです。

4. 今回のオンライン交流の課題・改善案を教えてください。

あらかじめ、どんなことが聞きたいか、相手に聞いておいてもよかったと思います。また、生徒交流の内容をもう少し詰められればよかったです。加えて、交流する学校のレベルはなるべく揃えた方がいいかもしれません。

2018年度



中国派遣



韓国派遣



インド招へい



タイ派遣

2019年度



中国派遣

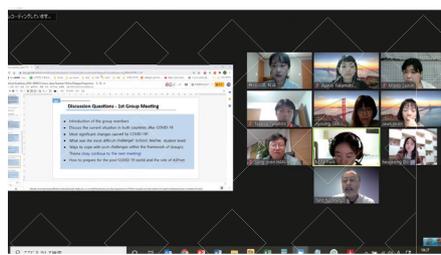


韓国派遣



タイ派遣

2020年度



日韓教職員オンライン
対話プログラム

インド招へい



中国招へい



タイ招へい



タイ招へい



Expert Meeting



中国招へい



韓国招へい



インド招へい



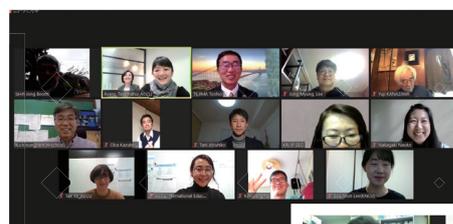
中国招へい



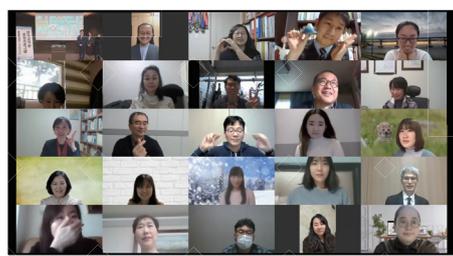
タイ招へい



中国とのオンラインによる交流



韓国招へいサブプログラム



韓国招へい



成果可視化委員会

プログラム関係機関

●文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, MEXT

文部科学省 大臣官房 国際課長	氷見谷 直紀
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長 (令和3年1月1日付 科学技術・学術政策局人材政策課 人材政策推進室長)	三輪 善英
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 室長補佐	松永 佳子
文部科学省 大臣官房国際課 国際戦略企画室 企画調査係 係長	小野 康平

●海外パートナー機関

- ・韓国ユネスコ国内委員会 (KNCU)
Korean National Commission for UNESCO, KNCU
- ・中国教育部
Ministry of Education of the People's Republic of China
- ・タイ教育省
Ministry of Education Thailand
- ・インド教育省
Ministry of Education Government of India
- ・国際NGOインド環境教育センター (CEE)
Centre for Environment Education, CEE

協力してくださった教育委員会や学校（2020年度）

●韓国教職員招へいプログラム

長野県上田高等学校	校長	廣田 昌彦
日本体育大学柏高等学校	校長	氷海 正行
千葉市立稲毛高等学校	校長	佐藤 啓之
八千代市教育委員会	教育長	小林 伸夫

●中国教職員招へいプログラム

大館市教育委員会	教育長	高橋 善之
大館市立北陽中学校	校長	伊多波 卓美
大館市立花岡小学校	校長	伊藤 哲朗
大館市立南中学校	校長	駒木 聖子
大館市立南小学校	校長	御船 美喜雄

●タイ教職員招へいプログラム

名古屋経済大学市邨高等学校	校長	澁谷 有人
山形県立山形東高等学校	校長	須貝 英彦

●インド教職員招へいプログラム

北杜市教育委員会	教育長	堀内 正基
北杜市立甲陵高等学校	校長	小尾 和正

事業実施・運営機関

公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター (ACCU)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-32-7F

Tel: 03-5577-2853 Fax: 03-5577-2854

Email: accu-exchange_ml@accu.or.jp

URL: <http://www.accu.or.jp>

田村 哲夫

Mr. TAMURA Tetsuo

理事長

進藤 由美

Ms. SHINDO Yumi

国際教育交流部長

高松 彩乃

Ms. TAKAMATSU Ayano

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

伊藤 妙恵

Ms. ITO Tae

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

岡野 晃一

Mr. OKANO Koichi

国際教育交流部プログラムスペシャリスト

天満 実嘉

Ms. TEMMA Mika

国際教育交流部プログラムオフィサー

小澤 華木

Ms. OZAWA Hanako

国際教育交流部プログラムオフィサー

文部科学省委託 令和2年度初等中等教職員国際交流事業 タイ教職員招へいプログラム実施報告書

2021年3月

発行 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町 1-32-7F 出版クラブビル
電話 (03)5577-2853
Email accu-exchange_ml@accu.or.jp
URL <http://www.accu.or.jp>
デザイン・印刷・製本 株式会社ワコー
編集 公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 国際教育交流部

©2021 Asia-Pacific Cultural Centre for UNESCO(ACCU)

